

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：ぶんぱく子ども教室「友禅染め京扇子づくり」

事業者名：京都文化博物館

住所：京都府京都市中京区三条高倉

TEL：075-222-0888

FAX：075-222-0889

HPアドレス：<http://www.bunpaku.or.jp/>

連携事業者名：京都市立京都御池中学校、京都扇子団扇商工
協同組合、本能まちづくり委員会、歩いて暮
らせるまちづくり推進会議

会場：京都文化博物館、京都市立京都御池中学校

事業期間：平成21年7月1日 ～ 平成22年3月15日



1. 館の使命と本事業の関係

京都文化博物館は、京のまちなかの博物館として1988年に開館。京都の歴史と文化を総合的に展示する博物館としてさまざまな活動を行ってきている。とくに最近は博物館をとりまくまちの様子が変化しており、地域住民などさまざまな個人・団体と連携し、地域全体がミュージアムという視点から、博物館をまちの中核として社会的・経済的・文化的役割を果たすことが使命であると考えている。今回は、地域の学校と伝統産業をこうした視点から結び付けるとともに、総合授業に組み込むことで子どもたちに地域や地域産業についてより身近に考える機会を与えることができる。

2. 企画内容

①事業の目的

京都市立京都御池中学（京都市中京区）3年生の総合学習『京都文化を学ぶ』の中の研究課題として、京都の伝統工芸である「友禅染め」と「京扇子」を組み合わせた制作体験プログラムを提供する。これは単に扇子作りの教室ではなく、博物館をプラットフォームとして、歴史や技術を学ぶとともに京都の伝統工芸の職人さんたちとの交流を通じた「京の匠の世界」の探求、京都ならではのものづくりのシステムの研究、研究発表としての展覧会の開催など京都の伝統文化を総合的に学習することを目的とする。

②事業概要

1) ものづくり

- ア. 京友禅と京扇子について専門家から話を聞く。
- イ. 下絵を完成させ、友禅技法を使って扇面に絵を描く。
- ウ. 扇子作りの工程の一部を体験する。→専門家によって完成。

2) 展示発表

- ア. 御池中学の授業として行われる『京都文化を学ぶ』に参加して研究完成を支援する。
- イ. 完成した京扇子を博物館で展示する。

3) 成果報告

- ア. 活動の成果を冊子にまとめ関係者に配布する。

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

平成 21 年

7 月 1 日 「京友禅の歴史と概要を学ぶ」「京扇子の歴史と概要を学ぶ」

活動概要：京友禅と京扇子について専門家から話を聞く。

講師：高岡由充、西嶋直和

講師：伊藤友隆

課題：次回までに下絵を考えてくる。

7 月 8 日 「友禅技法によって扇面に自由に絵を描く」

活動概要：下絵を完成させ、顔料を用いた友禅技法で扇面に絵を描く。

講師：高岡由充、西嶋直和

8 月 26 日 「扇子作り行程体験」

活動概要：扇子作りの工程のうち、「折り」と「扇骨挿し」を体験する。
→専門家によって完成。

講師：伊藤友隆、阿部 章

10 月 19 日～20 日 「御池中学学校祭」にて展示

活動概要：御池中学の授業として行われる『京都文化を学ぶ』に参加して研究完成を支援する。一人一人が自分の作品のキャプションを作成し、展示作業を行う。

11 月 3 日～15 日 「世界でたった一つの京友禅扇子」展示（京都文化博物館別館入口）

活動概要：京都文化博物館周辺で実施した「三条高倉まちかどミュージアム」の展示。一般の多くの方々に見学いただいた。

11 月 20 日・21 日 村田堂創業 120 周年記念展示会『京都の教育と学生服のあゆみ』
（京都文化博物館別館）

活動概要：出品依頼があり、別館のカウンターに展示した。

平成 22 年

2 月 3 日～17 日 京都御池中学校入口ホワイエにて展示

(2) 参加者の数

参加者人数 延べ 270人

(3) 事業により作成した印刷物等

展示活動：

展示案内看板

展示パネル

作品キャプション

報告活動：

「友禅染め京扇子づくり」の編集・発行

(4) 実施事業に関する新聞記事等

なし

4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

講師として参加いただいた職人さんや、京都市立京都御池中学校長先生のメッセージを紹介しながら今回の活動の効果をまとめておきたい。

9年生総合的な学習の時間（けやきタイム）『未来を創る』で、京都文化博物館で多くの事を学ばせていただきました。8年生の『京都に生きる』で研究したことを土台に、『京扇子づくり』を通して伝統文化や職人技また表現力等々を感じ取り、自分を表現することができました。そこから各自の研究テーマを設定し、自己と社会とのつながりや自己の将来のことを考えて、まとめあげる『一人一研究』を完成させることができました。

地域にあるこの京都文化博物館での体験学習は、歴史を感じながら落ち着いた雰囲気の中で、日常とは違った新鮮な学習の時間となりました。生徒たちにとってもすばらしい経験になり後輩たちにも伝えるものとなり、大きな収穫だったと感じました。

（御池中学校長先生）

江戸時代前期、扇絵師宮崎友禅が創意工夫により、女性の着物である小袖の文様に作った友禅染が今日の日本の染物の代名詞になっていることから、京友禅と京扇子は古くから関係が深く、京都文化博物館の近隣にも、多くの有名画家が育っています。

今回3回の講義・制作と少ない時間でしたが、生徒達が時間の経過に伴い、真剣に取り組む雰囲気になり、完成したときには喜びを一緒に感じる事が出来ました。

この様な取り組みにより、長い年月受け継がれてきた手工芸を今後も大切にし、継承していくとともに、学校、家庭、地域(文博)の協働により子供達の健全育成に

繋がると確信しています。

(染色補正伝統工芸士)

これらの意見の中に、ぶんぱく子ども教室がもっとも大切にし、もっとも期待した成果についての記述がある。

一つは、伝統文化や職人技また表現力などを感じ取り、自分を表現することができたことであり、もう一つは各自の研究テーマを設定し、自己と社会とのつながりや自己の将来のことを考えて、まとめあげる「一人一研究」を完成させることができたことである。

二つめはあくまで総合授業の中での最終目標であり、直接扇子づくりとは関係はないが、こうした地域の伝統産業、ものづくりを基礎、職人さんとのやりとりを通して、社会的課題、効果につながるものである。これこそ単なるものづくり体験ではない今回の活動のもっとも大きな成果であると考えます。こうした社会的活動こそ博物館が地域と連携していく大きな一つの意味があり、地域と密着した博物館ならではのものではないだろうか。